＝　ネパールに見る気候危機　＝

先進国のつけにあえぐ小国　　（竹の台　島田）

８月２６日のネパール土石流のひどさは、日本でも報道され、驚かれたと思います。この時、私はカトマンズにいました。ネパールでは近年、氷河が解けて下流に大きな湖ができ、その決壊が毎年数回発生し、被害を出しているため、社会的リスクとなっていました。

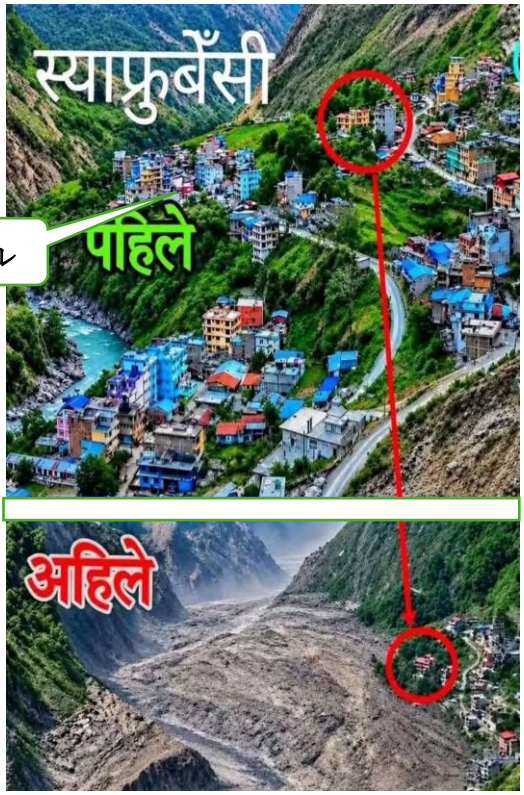
しかし、今回の大規模土石流は、氷河湖の決壊ではなく雪山自体の崩落でした。山を覆う雪が少なくなり、岩盤が温められ、割れたことが原因のようです。



ネパールとチベットの検問所のすぐ下のシャフルベシという“宿場町“があります。そこのホテルに２回宿泊しましたが、川底から１００ｍほどの高さにあり、「まあ、大丈夫だろう」と思っていました。しかし、その後のWEB サイトの写真を見て衝撃を受けました。



宿泊したホテルは土石流に埋まっていました。気の毒としか言いようがありません。



宿泊ホテル

この時のガイドのプルナさんと出会ったところ、これまた悲しい話を聞きました。



「この町で、私の親戚７名とガイドとして引率していたインド人旅行者３８名も一緒に行方不明になった。自分は、たまたま２日前にこのグループから別のグループに変更になり、チベット側にいた。この運命をどう考えたらいいか悩んでいる」・・・・

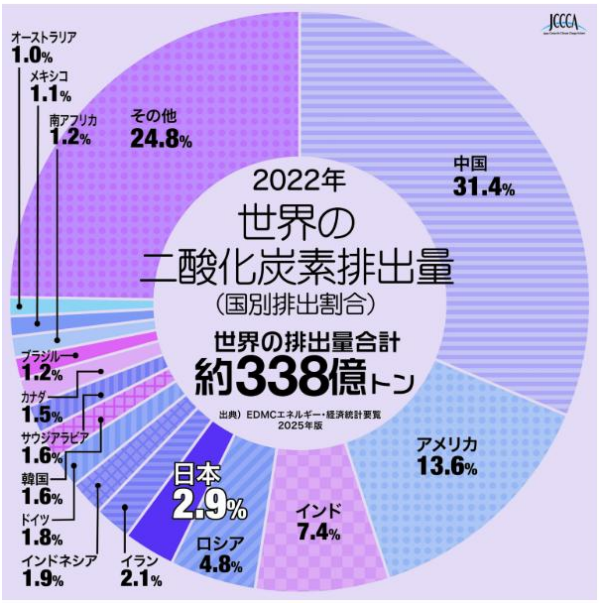
＜ネパール首相の国連での演説＞

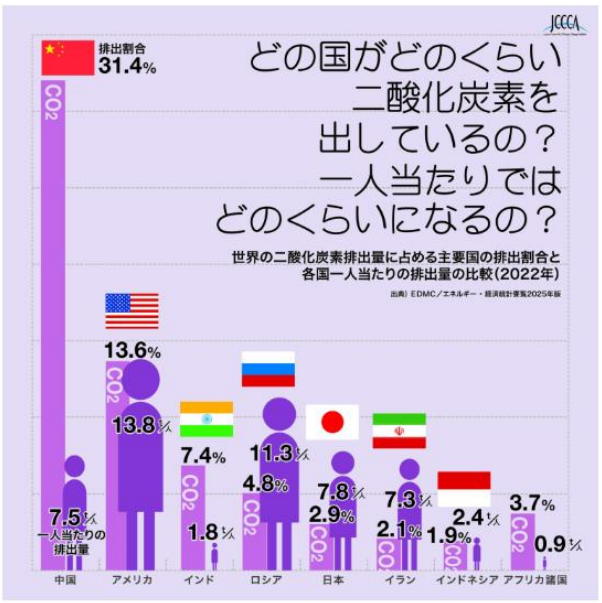
この大災害をうけて、バレン首相は９月の国連総会で①「ヒマラヤ津波は単なる局地的な悲劇ではなく、世界への警告」　②「ネパールのように二酸化炭素排出量が０．１%未満と少ない国への気候変動による災害対応支援は、巨額の有償融資や小規模助成金では不十分。無償資金援助、国際的な連携支援が必要」と訴えました。今後の災害復興費用は GDP の 12%と言われ、日本円に換算すれば、８０兆円となります。小国からすれば、この膨大な金額の前に、立ちすくむだけです。

ところで、国連の気候変動の取り組みとしては、パリ協定があります。世界の平均温度上昇を 2 度以内（努力目標 1.5 度）とし、2050 年までに温室効果ガスの排出と吸収の均衡を達成する。達成自体は義務ではないが、5 年ごとに削減目標を提出・更新する義務があります。2023 年には排出国を中心に気候変動基金が創設されました。ネパールがこの基金に３１億円を請求していますが、被害の大きさに比べ、焼け石に水と言えます。もちろん、個々の国からの支援がありますが、あくまでも任意の援助なので、ネパールから請求はできません。やはり被害国への先進国の保証責任制度の確立が必要ではないでしょうか。

気候危機の最大の要因は、温室効果ガスのうち、６割の比重を占める二酸化炭素の増加です。

世界の国別二酸化炭素排出量





「二酸化炭素の国別」、「一人当り」はこの表にありますが、国土面積の「1K ㎡当たり」の二酸化炭素排出量は、日本が２７０Kg、中国が１００Kg，インド７６Kg，米国４６Kg，ロシア９Kg と日本がダントツとなります。竹の台と美賀多台地区の範囲が 1K ㎡なので、世界中で面積当たり一番多く二酸化炭素を排出している範囲に私たちは住んでいることになります。こじつけになるかもしれませんが、このことと今回のネパールの災害を結び付けて考えていただければ幸いです。

（なお、災害カンパを受け付けており、直接首相災害口座に振り込みます。）

＜気候危機の一面、ヒマラヤ氷河の消滅＞

私は 15 年前からヒマラヤ登山を通じて、氷河の消滅の様子を体験してきました。また、干ばつや豪雨といったことも日常的になってきました。今回は、氷河の消滅を中心に紹介します。

エベレストなど 8000m 級の山を目指すには、ベースキャンプ（BC）からキャンプ 1、2，３などと前進し、山頂アタックとなります。ＢＣは体力回復地点ですので、大体 4300m 付近の高さになりますが、どこのＢＣも雪がありません。そこから 4500m の地点になると氷河の末端に到達して進むことになります。　　（雪のないＢＣ）



氷河の末端１



氷河の末端２





雪煙と轟音を立てながら崩れる雪山



上部付近だけが雪山に



＜氷河の比較写真（ポカラの国際山岳博物館にて）＞

1921 年から 2009 年の 88 年間で、氷河が氷河湖に変化





山から消滅氷河を見下ろせば、氷河湖が！



ネパールの水力発電は取水方式で、トンネルに水を流し、100mほどの落差で発電する

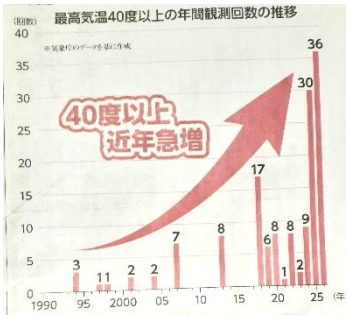
＜世界的気候危機＞

世界の気候危機で記憶に新しいのは、ヨーロッパの６月の熱波。平均気温が平年より約１０度Ｃ高く、４０度を超える地点も多数。ドイツ、フランス、スペインでは、高温に関連する死者数が暫定で２万５０００人で人口統計にも影響があるとのこと。また、熱波や干ばつ、森林火災が頻発しました。

フランスの知り合いからは、自宅から車で 15 分の山が 1 週間燃えた時の写真が送られてきました。また、年に 4、5 回、豪雨による土砂崩れで道が寸断されたり、川が氾濫して護岸がえぐられたりしているとのことです。



日本でも４０度以上の観測回数が急増しており、台風の発生数は８月末までに２３回発生し、これは平年の約 1.7 倍、1961 年以降で 2 番目に多いペース。千葉県の度重なる水害も驚きでした。



（山や平地だけでなく、海の気候危機も深刻）

特に、小国ほど気候危機の被害が大きく、国の存立にかかる問題で、南太平洋の島ツバルでも同じ。人口 11000 人の島の半分が２０５０年までに水没するという。

ツバルの外相がひざまで海に浸かり温暖化対策を訴えている写真は印象的です。



＜日本政府はエネルギー政策の転換を＞

再生可能エネルギーの構成は、カナダの 70%をトップに、日本は 29.3%で主要国で最低です。しかも、エネルギー政策は「原子力は安全確保を前提に最大限活用」、「安定供給を前提とした火力の着実な運用」として、再生可能エネルギーの具体的方針を明記していません。

日本政府は、石炭・石油・原子力から脱却し、再生エネルギーの優先利用が必要です。また、大規模排出業界（鉄鋼、化学。電力など 6 業種）との協定で削減計画の策定と具体化を図るべきです。

最後に、人の命をうばい、最大の環境破壊である戦争は地球温暖化の大きな原因です。自然災害はすぐには止められませんが、戦争は人間が止めることはできます。戦争国家作りをストップさせるために行動していきましょう。
なお、当会の「21 周年のつどい」は以下の行事を予定しています。

２１周年　記念のつどい　（西神ニュータウン９条の会）

日　時　　2027 年 5 月 22 日(土)　神戸市西区文化センター　2 階ホール

テーマ　「海から見る環境問題」

講　師　プロダイバー　環境活動家　武本　匡弘（ﾏｻﾋﾛ）さん



